



## 【造影CT検査の説明】

### 1. 画像診断検査で造影剤を注射する目的、必要性

- ① 病気の有無について確認
- ② 病気の種類について確認
- ③ 病気の広がりや進行度を確認

これらを評価するために造影剤を使用します。

### 2. 検査の方法

機械を用いてヨード造影剤を静脈内に注入しながら1回～複数回の撮影を行います。

このとき、少なからず**熱感(熱い感じ)**が出現しますが異常ではありません。

撮像部位によっては息止めの協力をしていただくことが必要です。

### 3. 造影剤使用で起こりうる副作用とリスクについて

#### ① アレルギー反応

体質により造影剤が合わないことで発症します。多くは軽症ですが、まれに重症の副作用が起こることがあります。

ヨード造影剤の副作用発現頻度(日本医学放射線学会HPより抜粋)

軽 症 : 100人に5人以下(かゆみ、蕁麻疹、嘔気・嘔吐、息切れなど)

重 症 : 25000人に1人程度(呼吸困難、不整脈、ショック、けいれん、腎不全、意識消失など)

死 亡 : 40万人に1人程度

遅発性副作用 : 100人に8人以下(検査後1時間～数日後に発生)

#### ② 造影剤腎症、甲状腺機能低下症

造影剤が原因で腎機能が低下することがあります。腎機能が低下している方はリスクとなりますので、造影検査を行う前に血液検査にて腎機能の確認が必要です。

また、甲状腺機能が低下することがあります(頻度不明)。

#### ③ その他

注射時に痛みを感じる場合があります。また、注入する時に造影剤が血管外に漏れることがあります。漏れた部位は腫れたり痛みを伴うことがありますが多くの場合は数日で軽快します。

### 4. 申告が必要な疾患

**造影剤副作用の既往や喘息のある方は**副作用の発症率が高くなる(6-10倍)とされていますので、申告が必要です。その他、以下の疾患についても申告が必要です: 重い甲状腺疾患、心臓疾患、脾臓疾患、褐色細胞腫、多発性骨髄腫、テタニー、マクログロブリン血症、重症筋無力症

### 5. 申告あるいは休薬が必要な内服薬

**ビグアナイド系糖尿病薬**については検査前後の休薬が必要となりますので申告してください。休薬を忘れた場合には造影検査を中止することがあります。

また、一時中止が必要な腎毒性のある内服薬については担当医にご確認ください。

**βブロッカー内服中の方は**、重い副作用が発症した際に治療薬が効きにくいことがあるため検査前に申告が必要です(中止していただく必要はありません)。

### 6. 検査当日の飲食について

**検査前4時間の絶食**が必要です。

飲水については、**水・白湯・お茶は制限はありません**。

### 7. 同意および撤回について

検査の同意はいつでも撤回できます。同意書をいただいた後でも撤回できますのでお申し出ください。

**その他、不明な点**はご遠慮なく質問してください。